経営学入門シリーズ

日経文庫

労使関係

津田真澂著

“日本的経営”の特質を
明快に示す待望の一冊

日経文庫・青版
〈経済学・経営学入門シリーズ〉

550円 1234−1515−5825 日本経済新聞社

労使関係

津田真澂著

日経文庫

515

まえがき

本書のねらいは、労使関係についての一般的基礎知識を説明するだけではなく、戦後の日本社会の中で展開している日本の労使関係の特質についても述べる、というところにあります。

戦後日本では世界史上でもまれにみるほどの高度成長経済が続きました。その結果、現在の日本社会では、雇われて働いている人々が就業者総数の中で七〇％を超えました。このことは、経済の面でも政治の面でも、労使関係が日本社会を動かす基軸となったということを意味しているのです。これは日本の歴史の上では初めてのことなのですが、欧米工業国ではずっと以前からそのような状態にありました。そして戦後の欧米社会では、労使関係が一国の運命を左右するほどの影響力をもってきたのです。今後の日本社会でも同じ状況になるでありましょう。

そこで本書では、まず序章および第1章において、労使関係が国際環境のもとでどれほど重要な社会的意義をもっているかについて認識していただくことをねらいとしました。この2章の記述を前提とした上で3章以下へ読み進んで下さい。

第3章および第4章は労使関係の理論として読んでほしいとおもいます。この二つの章によって一般的基礎知識が得られるでしょう。

第5章から第8章までは、労使関係の領域ごとに叙述をしていますが、どの章でも、最初に基礎的な知識を述べたあとで、もっぱら日本の労使関係の特質を説明することに大部分をついやしています。本書のような体裁の本では、諸外国の労使関係のすべてに気を配ろうとすると、どうしても内容が散漫になってしまい、読者に淡い印象を与えるだけに終わってしまうようにおもえたからです。

本書は編集方針として注記をしないことになっています。そのため、本書の記述のためには多数の方々の研究を利用させていただいたにもかかわらず、出典を明記しないことが多い結果になりました。このことをおゆるしいただきたいとおもいます。また本書の刊行にあたっては、日本経済新聞社出版局編集部の猪口春秋さんにお世話になりました。記して謝意を表わします。

本書は、筆者にとって、労使関係そのものを扱ったものとしては、約一〇年ぶりの書き下ろしの著作です。小さな本ではありますが、私なりの考えがあちらこちらに出ています。この意味で、特別の思いをこめて本書を世におくり出したいとおもいます。

昭和五十五年七月

津田真澂

目次

まえがき

序章　労使関係の理解のために

1　三六協定をめぐる争点……9
2　労使関係を学ぶ心がまえ……14

第1章　巨人になった労働組合

1　重みをます労働組合活動……19
2　政権と労働組合……24
3　労働サミット……26
4　国際関係と労働組合……28

第2章　労使関係制度の意義

1　OECDシンポジウム……33
2　市場経済と労働組合……36
(1)　古典的資本主義の時代……36
(2)　現代資本主義経済への転換……41
3　市場経済と労使関係……43
(1)　熟練職種労働組合の成立……43
(2)　産業別組合の成立……46
4　社会階層と労使関係……50
(1)　階層の分化……50
(2)　ホワイト・カラーの増大……52

第3章　社会風土と労使関係

1　社会風土の影響……57
2　契約と談合……59
(1)　契約の風土……59

(2) 談合の風土……61
3 労働の内面倫理……64
(1) ヨーロッパ世界での成立……64
(2) 日本人の労働の内面倫理……66
4 分業の特質……69
(1) 欧米における分業の特質……69
(2) 日本における分業の特質……73
5 企業の性格……75
(1) 欧米企業の特色……75
(2) 戦後日本企業の特色……77

第4章　労使関係の当事者たち
1 労使関係の重み……81
2 労働者と労働組合……83
(1) 労働者とは……83
(2) 労働組合とは……86
3 使用者と使用者団体……90
4 政府と裁判所……93
(1) 国法の執行機関としての政府……93
(2) 公務員等の使用者としての政府……97

第5章　団体交渉
1 団体交渉と労働協約……103
(1) 団体交渉とは……103
(2) 労働協約とは……105
2 団体交渉の経済モデル……108
(1) 労働組合の行動モデル……108
(2) 団体交渉のモデル……111
3 企業内団体交渉……116
(1) 団体交渉の社会風土……116
(2) 団体交渉と談合……119
(3) 団体交渉と内面倫理……120
(4) 団体交渉と職場……121
(5) 団体交渉と共同生活体としての企業……122

第6章　春　闘
1 春闘の意義と性格……129
(1) 春闘の意義……129
(2) 春闘の特色……132
2 春闘の流れを追って……135
(1) 春闘以前……135
(2) 春闘の始まり……138

第7章　労働争議
1 労働争議の意義と形態……145
(1) 労働争議の意義……145
(2) 労働争議の形態……148
2 社会風土と労働争議……151
(1) 欧米と日本の比較……151
(2) 暴力について……153
3 日本の労働争議……160
(1) 労働争議における暴力の類型……160
(2) 労使関係と労働争議……163

第8章　労使協議制と経営参加
1 労使協議制の発達……167
(1) 労使協議制の発生と変遷……167
(2) 戦後の展開……170
(3) 労使協議制の発展方向……173
2 日本の労使協議制……177
(1) 戦後の展開……177
(2) 労使協議制の運営……180
(3) 労使協議制と団体交渉……182

参考書について……189
索　引……191

著者略歴

津田真澂（つだ・ますみ）

昭和1年　東京都に生まれる
昭和27年　東京大学経済学部卒業
　東京大学経済学部助手，武蔵大学経済学部，イリノイ大学労使関係研究所，中央大学経済学部をへて，
昭和45年　一橋大学教授に就任
現　在　一橋大学社会学部教授。経済学博士
著　書　『アメリカ労働運動史』（総合労働研究所，昭47）『日本の労務管理』（東京大学出版会，昭45）『日本的経営の擁護』（東洋経済新報社，昭50）『日本的経営の論理』（中央経済社，昭52）『人事労務管理の思想』（有斐閣新書，昭52）

日経文庫（515）

労使関係

昭和55年7月25日　1版1刷

著者　津田真澂

© Masumi Tsuda 1980

発行者　黒川洸

東京都千代田区大手町1の9　郵便番号 100
発行所　日本経済新聞社
電話（03）270-0251　振替 東京 3-555

印刷・第一印刷　製本・トキワ製本所
(分)1234(製)1515(出)5825

本書の無断複写複製（コピー）は，特定の場合を除き，著作者・出版社の権利侵害になります。